

小・中・高校の学びのつながり

同じ活動を繰り返すだけでなく、これまでの経験を次の学習でどう生かすかを確かめます。

段階	重点の例と授業への生かし方
小学校・低学年	好きなことや身近な役割に気付く。絵や対話で経験を表す。
小学校・中学年	友達との協力や、地域の人との関わりを広げる。
小学校・高学年	集団で役割を果たし、自分と社会との関わりを考える。
中学校	体験と学習をつなぎ、自分の関心や選択の理由を考える。
高等学校	複数の可能性を検討し、社会への関わり方や将来を考える。

上は重点の例です。実際の発達や経験には個人差があります。学年の標準像に当てはめず、本人の声を確かめて調整します。

学年・校種をつなぐ打合せシート

学年会や校種間の打合せで、既存の年間指導計画と記録を見ながら使います。

確認する項目	記入欄（案内文は書き換えて使えます）
接続する学年・校種と共通の目標	
これまでの学習・経験と本人の声	重複する活動や、経験していない内容も確認する。
次の学習で深めたい姿	過去の経験が、どんな問いや選択につながるか。
教科・特別活動・総合等との関連	前後の単元、時期、担当を書き合わせる。
本人と確かめること・必要な支援	本人の言葉と教師の解釈を分け、共有範囲を確認。
引継ぎの方法・担当・確認日	キャリア・パスポート等、学校の手順に沿って決める。

低学年や支援が必要な児童生徒には、絵・口頭・代筆などで参加できる方法を選びます。

これまでの経験を、次の学びへ

日付	年	組	名前	活動名
1 今までに、心に残っている 学びや経験は？		2 そのときの工夫や、 自分のよさは？		
3 これから、やってみたいことや、 確かめたいことは？		4 始めるとしたら何をする？ 相談したい人は？ まだ考え中でも OK。		

分からないことや、不安なことも書けます。
前の記録がないときは、思い出せる経験から考えられます。

振り返りシートの記入例

書き方の例です。本人の経験と言葉を大切に、対話に生かします。

1 今までに、心に残っている 学びや経験は？ 小学校の町たんけん。 店の人の工夫を聞いた。	2 そのときの工夫や、 自分のよさは？ メモを用意して質問できた。 相手の話を聞くことが好き。
3 これから、やってみたいことや、 確かめたいことは？ 中学校では、工夫だけでなく 困り事も聞いてみたい。	4 始めるとしたら何をする？ 相談したい人は？ まだ考え中でも OK。 今週、聞きたいことを 1 つ書き、 先生と質問の仕方を相談する。

前のページの白紙シートを使い、次にすることや、相談したいことまで一緒に考えられます。

08 の授業と振り返りの例

以下は架空の例です。学校の目標や児童生徒の実態に合わせて組み替えます。

校種・場面	目指す姿・使い方	児童生徒の言葉の例
小学校 町たんけん	地域の人工夫に気付く	店の人が困っていることも聞いてみたい
中学校 地域と仕事の学習	小学校の疑問を読み返し、質問を深める	その工夫を続けるために、だれと協力していますか
高校 地域課題の探究	経験をもとに問いを立て、調べて提案する	立場によって困り事が違うか、確かめたい

校種間をつなぐ架空例。小学校の町たんけんの疑問を、中学校の仕事の学習で再検討し、高校の探究で複数の立場から調べます。すべての児童生徒にこの順序を求める例ではありません。

次の行動の例：次の学期の単元に、過去の疑問を読み返す時間を入れる。
担当者が実施後の反応を共有する。

10 分の校内研修と参考資料

既存の学年会などで使えます。最後に、授業で試すことと確認日を 1 つ決めます。

2 分：前の学年・学校で経験したことを、記録から確認する。

5 分：同じ活動で何を深めるか、本人に確かめる問いを考える。

3 分：次の単元、担当、引継ぎ方法、確認日を決める。

文部科学省の参考資料

小学校キャリア教育の手引き（2022 年 3 月）第 3 章 pp.64、66

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/detail/mext_01951.html

中学校・高等学校キャリア教育の手引き（2023 年 3 月）第 1 章 pp.27-28

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/detail/mext_00010.html

「キャリア・パスポート」Q&A（令和 4 年 3 月改訂）問 5・6

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/detail/1419917_00001.htm

本資料は手引き等を参考にした吉田正之のオリジナル資料です。文部科学省の公式様式ではありません。
学校内の授業・研修に印刷・編集して使えます。ページ番号は冊子の表記です。

年間計画をつなぐ 30 分の打合せ

モデル案：学年会・校種間の教員研修。既存の単元と子どもの記録を持ち寄って検討します。

ねらい：前の経験を次の単元でどう生かすか、具体的な問い・担当・時期を一つ決める。

準備：既存の年間指導計画、匿名の記録、資料 03 や本資料 2 ページ。学校間の共有範囲を先に確認。

時間	教員が行うこと	検討する問い
5 分	学年・学校の目標と、扱う児童生徒の姿を共有。	『どんな経験・関心が、記録から分かる？』
10 分	前後の単元を並べ、重なりと未経験を確認。	『繰り返す意味は？ 次に何を深める？』
10 分	次の単元で読み返す記録と問いを選ぶ。	『本人に何を確かめる？ どんな支援が要る？』
5 分	実施する場面、担当、確認日を決める。	『いつ、誰が、実施後の反応を共有する？』

校種の順番を一律の到達段階にせず、実際に経験した内容から考えます。引継ぎは学校・設置者の手順に沿い、共有が必要な情報と範囲を確認します。

前の単元と次の単元をつなぐ表

上 2 行は架空の接続例。下の空欄に、自校の単元と本人に確かめたい問いを書き込みます。

前の学び・残った問い	次の単元・時期	本人への問いと担当
小 6 ・地域インタビュー 『店の工夫をもっと知りたい』	中 1 ・地域と仕事の学習 各校の計画に合わせる	『どの工夫を、なぜ確かめたい？』 総合担当と学級担任で共有。
中学校・職場体験 『困ったとき相談できた』	高校・学期初めの HR 引き継いだ記録を活用	『今の学習で生かせる準備は？』 HR 担任が本人と確認。
単元・本人の問い：	次の単元・実施時期：	本人への問い・担当：
単元・本人の問い：	次の単元・実施時期：	本人への問い・担当：

教科等の目標を確かめ、キャリア教育の視点と関連付けます。キャリア・パスポートは既存記録を基に精選し、次の学級活動・HR 等での対話に活用します。